

# 瑞穂区地域包括ケア 医療・介護連携通信

第1号  
平成26年8月発行  
瑞穂区東部・西部  
いきいき支援センター

## 「第1回瑞穂区地域包括ケア医療・介護連携会議」を開催しました！

平成26年8月6日(水)、瑞穂区休日急病診療所において医療・介護連携会議(瑞穂区医師会、瑞穂区役所、瑞穂保健所、瑞穂区東部・西部いきいき支援センターの共催)を開催しました。区内医師会(病院・診療所)医師、看護師等のほか、介護支援専門員(ケアマネジャー)、訪問看護ステーション看護師、行政(区役所・保健所)、いきいき支援センターから84名の方々にご参加いただきました。



### 顔の見える関係づくりを！

開会挨拶・趣旨説明を瑞穂区医師会会長 狩野良雄医師(かのうクリニック)よりいただきました。地域包括ケアシステムは概念的なものであり、医療・看護・介護・福祉が高齢者を総合的にサポートしていく具体的なプランは、お互い意思の疎通ができ、組織的な連携があり、顔の見える関係の中でできていくもの。よって、本会議は地域包括ケアを担う私たちの顔の見える関係をつくることを目的に開催するものとご説明がありました。

その後、参加者全員を紹介し、続いて区役所区民福祉部福祉課 近藤課長より「名古屋市における地域包括ケアシステムの構築について」ご説明いただき、平成26年度モデルで実施している「在宅医療・介護連携推進事業」から、医療と介護のルールの形成やICT(情報通信技術)等を活用した連携について市の施策をご紹介いただきました。続いて、いきいき支援センターからは、昨年度策定し、26年度が5か年計画の初年度になる「瑞穂区地域包括ケア推進計画」について説明させていただきました。

### 医療・介護連携事例の紹介

医療・介護の連携のあり方を考える機会にと、具体的な連携事例を紹介しました。事例は木下紀子主任介護支援専門員(瑞穂・熱田ケアマネジメントセンター)より紹介いただき、末期がん・看取りを通じた医師、訪問看護、ケアマネジャーの役割を確認しました。その中で急遽ご登壇いただいた勅使河原修医師(みずほ通りクリニック)より「24時間地域で切れ目なく支えていく体制づくりの必要性」「ケアマネジャーは指揮者であるべきで、医療・介護・福祉の橋渡し、総合的な役割が期待される」とコメントをいただきました。また、会場からも「患者(利用者)を診療所医師だけでなく24時間地域で支えていくためには、医師(診療所・病院)、訪問看護、ケアマネジャーの連携は欠かせない」とお話しいただきました。

事例検討を模擬的に行ったものですが、地域で患者(利用者)さんを支えていくために、連携のあり方に関する課題も確認することができました。



#### 【ご登壇いただいた皆様】

- 木下ケアマネ、安藤ケアマネ、宇都宮ケアマネ(瑞穂・熱田ケアマネジメントセンター)
  - 勅使河原医師(みずほ通りクリニック)
  - 阪野看護師(瑞穂区訪問看護ステーション)
  - 稲熊ケアマネ、安國ケアマネ(オレンジ居宅介護支援事業所)
  - 上園ケアマネ(アミカ瑞穂介護センター)
- ご協力ありがとうございました！

## 顔の見える関係づくり「地域包括ケアに関するグループ意見交換」

残りの時間は、8グループに分けて行った「地域包括ケアに関する意見交換」です。予め意見交換の話題として、①軽度認知症の診断と早期対応について、②他業種間の連携方法について、③在宅での緊急対応について、自己紹介を交えて行いました。どのグループも大変盛り上がり、終了時間と告げるのを司会が躊躇するほどでした。最後は、会場全体で共有し、次回以降の課題整理の機会となりました。



## 次回に向けて～一層の顔の見える関係づくりと

### フレイル（老年症候群＋社会的心理的概念）～

本会議を踏まえて、次回に向けた課題提起を瑞穂区医師会を代表して野々村一彦医師（野々村クリニック）にお話しいただきました。日本老年医学会は高齢になって筋力や活力が衰えた段階を「フレイル」と名付けました。その予防に取り組むことの重要性を医療・介護の連携の一つの軸になります。また、地域包括ケアシステムの構築が求められる背景は言い換えると、スピードが緩やかな災害時の救命等の対応に似ているとも言えます。瑞穂区でいかにその体制をつくるのか、一層の顔の見える関係をつくり、具体的に議論していきたいと結んでいただきました。また、介護分野から代表して、西部いきいき支援センターの高橋より、地域包括ケアは専門職だけでなく、地域住民への啓発が必要であるため、11月8日（土）～12日（水）に開催する「みずほ介護フェスタ'14」をその機会としたいとお話ししました。



## 連携強化への期待

最後までご出席いただいた名古屋市立大学病院医療福祉地域連携室 吉田篤博室長からは今後への期待をお話しいただきました。最後に閉会の挨拶で瑞穂区医師会副会長 渡辺信医師（渡辺医院）から、第1回目は大成功。今後益々連携が図れるようにと力強いお言葉をいただきました。

終了後のアンケートでも、90%を超える方から「大変満足」「満足」と回答いただき、職種間の相互理解が深まったとの感想を数多くいただきました。ご協力いただいた皆様、ご出席の皆様、誠にありがとうございました。

【編集後記】 日頃、ケアマネジャーからは医師への敷居が高いとハードルを作りがち、医師にとってはケアマネジャーが何をやっているのかわからないという声が聞こえていました。そんなお互いの垣根を取り払い、同じテーブルで顔を合わせて議論することで相互理解を深め、地域包括ケアについて語り合う顔の見える関係づくりの第1歩が始まりました。今後もこのような場を継続して開催し、瑞穂区の地域包括ケアの姿を共に描いていければと思っています。

【発行】瑞穂区東部・西部いきいき支援センター 【連絡先】瑞穂区西部いきいき支援センター TEL 872-1705

# 瑞穂区地域包括ケア 医療・介護連携通信

第2号  
平成27年2月発行  
瑞穂区東部・西部  
いきいき支援センター



瑞穂区医師会 狩野良雄会長

「第2回瑞穂区地域包括ケア医療・介護連携会議」を開催しました！  
平成27年2月18日(水)、瑞穂区役所で医療・介護連携会議(瑞穂区医師会、瑞穂区役所、瑞穂保健所、瑞穂区東部・西部いきいき支援センターの共催)を開催しました。区内医師会(病院・診療所・老健)医師・看護師等25名のほか、訪問看護ステーション看護師8名、介護支援専門員(ケアマネジャー)29名、行政(区役所・保健所)6名、いきいき支援センター8名から76名の方々にご参加いただきました。

まず、開会挨拶を瑞穂区医師会 狩野良雄会長(かのうクリニック)よりいただきました。在宅における訪問看護師への期待、多職種連携の必要性についてお話した上で、歯科医師会 勝瀬佐和子歯科医師(桑原歯科医院)、瑞穂区薬剤師会 金森建樹会長(大栄堂薬局)をご紹介いただきました。地域包括ケア、在宅生活を支えるには、歯科医師、薬剤師の先生方との連携も欠かせません。



瑞穂区歯科医師会  
勝瀬佐和子歯科医師



瑞穂区薬剤師会  
金森建樹会長

## 訪問看護の役割と連携

今回は、在宅療養生活には欠かせない訪問看護の基本的な役割や症例を通じた連携の実際を愛知県看護協会 真下美枝子氏(訪問看護ステーションたかつじ所長)にお話しいただきました。愛知県看護協会が作成した冊子「訪問看護の活用のしかた」に添って、活用のタイミングやサービス利用の流れ、利用可能な疾病などの基礎から、要介護認定が軽度であっても、入退院を繰り返す、精神障がいなどで不安・不眠がある、褥瘡予防など、早期の訪問看護の必要性についてご説明いただきました。また、在宅看取りの症例から患者さん本人に寄り添い、多職種・訪問看護ステーション間の連携などの現状を学びました。



愛知県看護協会  
真下美枝子氏



愛知県看護協会発行パンフレット「訪問看護の活用のしかた」に関するお問合せ  
愛知県看護協会 TEL 052-871-0711

【ご出席いただいた訪問看護ステーション】(順不同)

- 瑞穂区訪問看護ステーション
- 訪問看護サラダ・ナース
- 訪問看護ステーションサルビア
- 訪問看護ステーションオアシスセンター
- 訪問看護ステーション空
- 野々村クリニック
- 訪問看護リハビリステーション陽明
- ピース訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーションたかつじ

## 在宅看取り・多職種連携の症例の紹介

医師、訪問看護師、介護支援専門員等の多職種連携における課題を共有するために、今回は、成田外科 成田達彦医師、みずほ通りクリニック 勅使河原修医師、野々村クリニック 野々村一彦医師より在宅看取り、多職種連携の症例をご紹介いただきました。さらに症例を踏まえて、ご出席いただいた先生方から積極的なお話もあり、現状を踏まえた課題を整理することができました。

## ふつうに亡くなることをサポートしたい ～本人・家族の安心感、グリーフケア～

3名の先生方の症例から、在宅療養には本人・家族が安心感を持てること、つまり家族の不安感を払拭しない限り在宅緩和ケアは難しい。本人が亡くなった後の遺族のグリーフケアまでの対応が必要であること。身寄りのない方の在宅療養には限界があるのか。本人・家族と医師等の信頼関係の構築など、本人・家族の意思を尊重し、ふつうに自宅で亡くなることをサポートするには、多くの課題があることを共有しました。その解決のためには、医療・介護の連携が必要であり、財源や在宅療養、本人の自己決定を尊重する市民理解も重要です。



成田外科  
成田達彦医師



みずほ通りクリニック  
勅使河原修医師



陽明寺本クリニック  
寺本隆医師



渡辺医院  
渡辺信医師



新生会第一病院  
小川洋史医師

### 顔の見える関係づくり 「多職種連携意見交換」

症例を踏まえて、8グループに分かれて意見交換を行いました。グループからは、退院カンファレンスに薬剤師さんの参加の必要性、支える家族間の意識統一をどうサポートするのか、本人の意思を尊重しながら選択肢を示すこととその役割を誰が担うのかなど、活発な意見をいただきました。



野々村クリニック  
野々村一彦医師



瑞穂区役所福祉課  
近藤芳弘課長

### 瑞穂区における在宅医療・介護連携の方向性

今後の在宅医療・介護連携の方向性について、瑞穂区医師会を代表して野々村一彦医師(野々村クリニック)にお話いただきました。顔の見える多職種連携の場を継続すること、ICTシステム(カナミック)の活用、平成28年度に瑞穂区で在宅医療・介護連携支援センターを開設し、平成27年度下半期には昭和区かわな病院を中核施設とした区域ブロック制の検討を開始すること、また在宅医療の現場では専門性と多様性を担保することを整理していただきました。平成27年度もこの連携会議を継続することとし、年3回(6月、9月、2月)開催することとしました。

最後に、閉会挨拶を瑞穂区医師会 渡辺信副会長(渡辺医院)、瑞穂区役所福祉課 近藤芳弘課長にいただきました。

【編集後記】 今回の訪問看護、症例紹介と在宅看取りや多職種連携の現場から具体的な課題が挙がってきました。顔の見える関係づくり、連携のルールづくりを進めながら、瑞穂区の在宅医療・介護のあり方の具体的な姿を皆様と一緒に描いていきたいと思っております。今後も会議だけでなく、日常業務の中でも連携の輪が広がることを期待します。

【発行】瑞穂区東部・西部いきいき支援センター 【連絡先】西部いきいき TEL 872-1705

# 瑞穂区地域包括ケア 医療・介護連携通信

第3号  
平成27年7月発行  
瑞穂区東部・西部  
いきいき支援センター

## 「第3回瑞穂区地域包括ケア医療・介護連携会議」を開催しました！



平成27年6月18日(木)、瑞穂区休日診療所研修室で医療・介護連携会議を開催しました。(瑞穂区医師会、瑞穂区役所、瑞穂保健所、瑞穂区東部・西部いきいき支援センターの共催)

区内の医師会(病院・診療所・老健)医師・看護師等29名のほか、訪問看護ステーション看護師8名、介護支援専門員(ケアマネジャー)35名、サービス事業所7名、行政(区役所・保健所)6名、いきいき支援センター12名の合計97名の方々にご参加いただきました。

開会に際してのご挨拶を、瑞穂区医師会 狩野良雄会長(かのうクリニック)より頂戴しました。

瑞穂区において、平成28年度に開所が予定されている「在宅医療・介護連携支援センター」をはじめとした、名古屋市在宅医療・介護連携推進事業の今後の見通しについてご説明いただくとともに、医療介護の連携にむけての課題や展望についてお話しをいただきました。



## 「在宅医療・介護多業種情報連携ICTシステムについて」



今回は、カナミックネットワークの菊池滋氏よりICTシステムについて説明をしていただきました。

中村区での実践を元にシステムの概要説明や運用事例の動画を見た後、プロジェクターを用いて操作の説明を受けました。

その後、パソコンやタブレット、ご自身のスマートフォンを使用して実際に、模擬画面での操作を体験しました。

質疑応答では、セキュリティーの問題や記入する手間、誰が基本情報を入力するのか等、今後の課題が多数挙げられました。

## 「ICTシステムが多業種連携に有効だと思われた一例」

在宅での看取りに積極的に取り組まれている、石原廉医師(いしはらクリニック)より、末期がんの患者様を連携して看取った症例をご紹介いただきました。

緩和ケアで最も大切なことは、本人や家族の不安を解消していくことであると話しいただきました。また、亡くなった患者様のケアを振り返り、今後のケアの質を高めるデスカンファランスについてもご紹介をいただきました。

また、ICTシステムが活用できる可能性として、病院や多職種でチームを編成し、手軽に情報・意見の交換・共有ができること、そして患部・創部の状態等、情報を即時に共有でき、状態に合わせたサービスの導入等、対応の迅速化が図れることとのご意見をいただきました。



## 顔の見える関係づくり「多職種連携意見交換」

石原医師の症例を踏まえて、8グループに分かれて意見交換を行いました。

グループから出た意見としては、「リアルタイムで情報の共有ができることで、迅速な対応に役立つと思う反面、直接的なコミュニケーションが減らないように。」「ICTシステムが導入される前であっても、多職種の連携を図るためにこういった会議で、実際に顔を合わせて話し合うことで円滑な関係作りがなされていくのではないか。」等の発表がありました。

3回目ということもあり、各グループの話し合いも活発に行われました。



## 瑞穂区における在宅医療・介護連携の方向性



今後の在宅医療・介護連携の方向性について、瑞穂区医師会を代表して野々村一彦医師(野々村クリニック)にお話しいただきました。

顔の見える多職種連携の場を継続すること、ICTシステム(カナミック)の活用、平成28年度に瑞穂区で在宅医療・介護連携支援センターを開設し、平成27年度下半期には在宅医療・介護連携支援コンタクトセンターの場所も決まり、本格実施に向けて着実に動いている。

その一方で県内では病床数が大幅に減少していく状況をご説明いただき、他の地域の先進的な取り組みとして『うすき石仏ねっと』を例に挙げられ、在宅医の参入促進の可能性についてご発言いただきました。

最後に、瑞穂区保健所 平田宏之所長に閉会挨拶をいただきました。

ご自身の介護経験にもふれられ、今回の会議がとても有意義な連携の場であったと、お言葉をいただきました。

次回は、第4回を9月16日(水)に開催予定です。

内容や会場等の詳細が決まりましたら、ご連絡いたします。

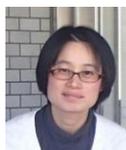


【編集後記】 ICTシステムの導入により、医療と介護のスムーズな連携が可能になり、情報共有の大切さを考えることが出来ました。課題も出てくると思いますが、この会議を継続して、実際にお会いし顔の見える関係があれば、より連携が迅速にできるのではないかと感じました。今回から、いきいきのメンバーの入れ替わりがありました。前任の高橋同様に頑張ってください。

よろしくお願いいたします。

【発行】 瑞穂区東部・西部いきいき支援センター

【連絡先】 西部いきいき支援センター TEL 872-1705



東部いきいき  
センター長  
長嶋寛子



西部いきいき  
センター長  
岡野智彦

# 瑞穂区地域包括ケア 医療・介護連携通信

第4号  
平成27年10月発行  
瑞穂区東部・西部  
いきいき支援センター

平成27年9月16日（水）瑞穂区役所会議室にて「地域包括ケア医療・介護連携会議」が開催されました。今回は医師会・歯科医師会・薬剤師会会員、介護支援専門員・介護サービス事業者、行政職員等、計79名の方に参加いただきました。

## 医療・介護連携に向けて

開会の挨拶として、瑞穂区医師会の狩野会長から、本会議の第1回からの振り返りと、10月から始まる在宅医療・介護連携支援センターについて抱負を語っていただきました。

続いて、瑞穂区歯科医師会の勝瀬氏、瑞穂区薬剤師会の近藤氏からの挨拶では、困っていること等あれば教えてほしい、今後も連携を図っていきたいという心強い言葉をいただきました。



勝瀬氏 近藤氏 狩野氏

## 医療介護連携事例の紹介

今回は、医師会、歯科医師会、薬剤師会から症例の提示がありました。

最初に、みずほ調剤センター薬局の上田さゆり氏からは、薬剤師の訪問事例について、薬の管理がわからなかった場合の対応例や、居宅療養管理指導についての説明がありました。



上田さゆり氏



廣中克紀氏

次に、広中歯科医院の廣中克紀氏からは、介護老人保健施設やサービス付き高齢者住宅での訪問歯科診療についての事例報告がありました。

訪問歯科が専門ではない歯科医院では、家族等との連絡調整を先生が直接行うこともあり、個別訪問は調整が大変だというお話がありました。

最後に、成田外科胃腸科の成田達彦氏からは、訪問看護や薬剤師との連携の事例提供がありました。

医師でも原因がわからない症状があった時に、薬剤師に質問して回答を得ることもあるというお話がありました。



成田達彦氏

## グループ意見交換

グループ意見交換の時間では「地域包括ケアを展開する上で、居宅における医師、歯科医師、薬剤師と介護関係事業者の連携のあり方と、期待される役割について」というテーマで、8グループに分かれ意見交換を行いました。

「これまで、薬局までには連絡をしていなかった」、「訪問歯科をしている歯科の情報を教えてもらいたい」、「どこまで在宅で生活続けるのか、限界はある」、「病気等で身体状況が悪化してきたら、医療との連携が不可欠になる」など、30分程度の短い時間でしたが、活発な意見交換となりました。



その後、3つのグループが意見交換の内容を発表しました。「それぞれの専門職はゴールを一緒にしないといけない」「医療費の自己負担の無い方が訪問医療に切り替えたことで、居宅療養管理指導が加算され、トラブルになったので、紹介する時は気をつけなくてはならない」などの報告がありました。

また、今後の日程と報告事項として野々村クリニック 野々村一彦氏から瑞穂区では来年度から区在宅医療・介護連携支援センターが新生会第一病院に設置されるとの発表がありました。

そして、同院の小川洋史氏からも、設置に向けた挨拶をいただきました。



野々村一彦氏



小川洋史氏

事務連絡として、区役所区民福祉部福祉課 近藤課長から11月に開催される「みずほ介護フェスタ '15」について、また、西部いきいき支援センター 岡野センター長からは西部圏域で今年の8月から始まった「認知症初期集中支援チーム事業」の報告がありました。

最後に、瑞穂保健所保健予防課 柏木課長が閉会の挨拶として「医師だけでなく薬剤師や歯科医師も連携に積極的に参加して、他区も参考にしながら次へつなげていってほしい。」との言葉で閉められました。



柏木課長

# 瑞穂区地域包括ケア 医療・介護連携通信

第5号  
平成28年3月発行  
瑞穂区東部・西部  
いきいき支援センター

## 「第5回瑞穂区地域包括ケア医療・介護連携会議」を開催しました



狩野 良雄 会長

平成28年2月18日(木)、瑞穂区休日診療所研修室で医療・介護連携会議を開催しました。(瑞穂区医師会、瑞穂区役所、瑞穂保健所、瑞穂区東部・西部いきいき支援センターの共催)

区内の医師会(病院・診療所・老健)医師・看護師等29名のほか、訪問看護ステーション看護師5名、介護支援専門員(ケアマネジャー)31名、サービス事業所6名、行政(区役所・保健所)8名、いきいき支援センター10名の合計89名の方々にご参加いただきました。

開会のご挨拶を、瑞穂区医師会 狩野良雄会長(かのうクリニック)より頂戴しました。いよいよ4月から「在宅医療・介護連携支援センター」が開所となり、より一層の医療と介護の連携が必要となっていくため、皆で一丸となつてがんばっていきましょうとお話いただきました。

4月にセンターが開所予定の、新生会第一病院院長の小川洋史氏のご挨拶と、「在宅医療・介護連携支援センター」職員の石川久美子氏より着任のご挨拶をいただきました。石川氏からは、3月からは職員がもう1名配置されて、今後は2人体制で業務を行っていきます、と説明がありました。



石川 久美子 氏

## 在宅医療・介護連携について



鈴木 学 氏

南区在宅医療・介護連携支援センター鈴木学氏より、センターの具体的な業務内容についての説明がありました。昨年名古屋市医師会が作成した「名古屋市における在宅医療・介護連携ガイドライン」を参考に、事例も交えながら、連携を図っていきたいとお話でした。瑞穂区内の病院の「在宅医療・介護支援システム」への登録が32件と他区に比べても多く、狩野会長のお力があってこそその数字であると言われていました。大都市圏でここまでのシステムの運用は少なく、上手く活用できるかは皆さんにかかっています、とのご意見をいただきました。

続いて中部テレコミュニケーション株式会社の福岡様より利用者登録申請と療養者登録の方法についての説明がありました。

質疑応答では、実際に書き込みをしているのは誰が多いのかという質問があり、一番多いのはやはりケアマネジャーであるが、デイサービスやヘルパー事業所の書き込みも多くなっていると回答されていました。

狩野会長よりできるだけ多くの医師や事業所に参加していただき、「はち丸ネットワーク」をよりよいものにしていきたいとお言葉をいただきました。



## 症例紹介

今回は「高齢者在宅医療に対する整形外科の関わり」について陽明寺本クリニックの寺本隆氏より症例紹介をしていただきました。

ロコモティブシンドロームは50歳を過ぎると7割以上に出現する可能性があり、介護が必要になった理由の1位は運動器疾患であるとのことでした。

健康長寿になるためにはやはり日々のトレーニングを行っていく必要があるとお話いただきました。

陽明寺本クリニックでは、勉強会と運動をセットで行っている市民公開講座や、八事日赤病院の医師に来ていただき、転倒予防セミナーを定期的に行っているそうです。

次に、症例を何例か挙げていただき、重篤な整形疾患を見逃さないよう、**red flags**(危険信号)に注意することなど、病院を受診するポイントを教えていただきました。

整形外科では通院が困難になった方には往診をする場合もあり、診療の内容を含めて説明もありました。

まずは、予防が一番。連携することで**red flags**に注意し重篤な疾患から高齢者を守りましょうとお話いただきました。



寺本 隆 氏

## 閉会の挨拶



成田 達彦 氏

最後に、閉会の挨拶を成田外科の成田達彦氏よりいただきました。

4月より在宅医療・介護連携支援センターがいよいよ開始します。

狩野会長を中心として瑞穂区の医療と介護の連携をがんばっていきましょう、との強いお言葉をいただきました。

今年度の医療・介護連携会議は今回で最後となりました。

今年度も多数の皆様にご参加いただきました。次回の開催は来年度の7月を予定しております。

次回は本格的に連携支援センターが稼働している状況での会議となります。

内容や会場等の詳細が決まりましたら、ご連絡いたします。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

別紙にアンケート結果をつけさせていただきましたので、ご参考にしていただければと思います。

### 《編集後記》

医療・介護連携会議も皆様のご協力をいただき、5回目を無事終了することが出来ました。ありがとうございました。今年度は、年度途中からの西部いきいきセンター長の交代があり、ご迷惑をおかけしました。

いよいよ4月から瑞穂区でも在宅医療・介護連携支援センターが開所いたします。

ICTシステムを円滑に運営できるように、これからも会議の開催を通じて、顔の見える連携体制作りを引き続き行っていきたく思っております。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【発行】瑞穂区東部・西部いきいき支援センター 【連絡先】西部いきいき支援センター TEL 872-1705